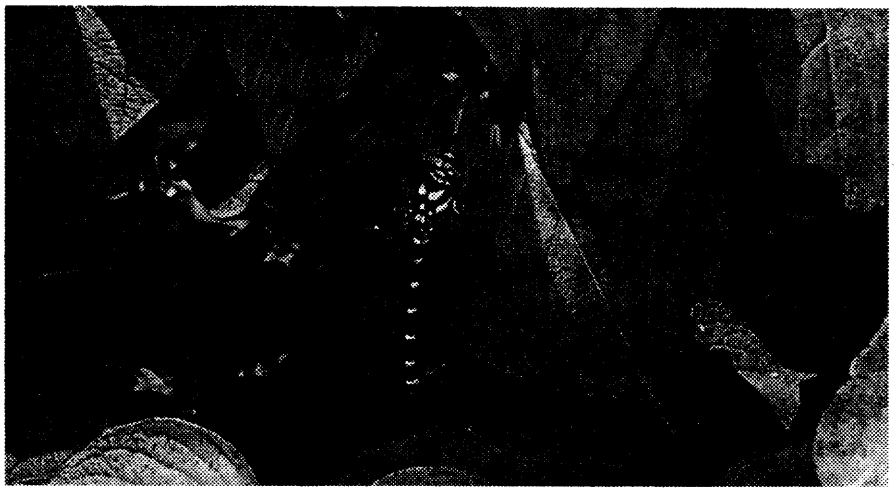
みずみどり

1998年7月15日　第7号
発行：いたばし水と緑の会 事務局
〒173-8501 板橋区板橋2－66－1 TEL 03-3579-2598
板橋区環境保全課内　FAX 03-3579-2589

オニヤンマ発見！！



6月20日、乗蓮寺下のビオトープにて観察していると、「あっ、オニヤンマだ！」の一声。一同騒然となり、それまで池の周りを飛び交っていたオオシオカラトンボへの視線は一斉にオニヤンマへ…。

池を掘る前に移植したウツギの葉影に、黒地に黄色の縞模様の大きな大きなトンボが止まっているのを発見しました。

このオニヤンマは体長約12～13ｃｍ、羽化したてなのか、私達のあまりの興奮におののいてか、周囲の大騒ぎをよそに、一向に飛び立つけはいもなく、上から横からオニヤンマを囲むようにして観察する私達の目をしばらく楽しませてくれました。

釣巻さんが前回の会報で説明されていたあの憧れのトンボにこんなに早く出会えるとは思ってもいませんでした。

これも汗水流して皆で池を創ったこと、そして何よりきれいな湧水のおかげなんですね。

環境さえ整えてあげれば、生き物達がすぐにやって来てくれることを痛感しました。オニヤンマだけでなく、もっといろいろな生き物が集まってくる環境になるよう、自然回復のお手伝いをしていきたいと思います。

植物もかなり観察できました。これから先どんな昆虫がやって来て、どんな植物が生えてくるのか大事に見守っていきたいものです。　眞崎　美和子

乗蓮寺下のわき水の池づくり

徳丸　眞崎　哲二

赤塚5丁目の乗蓮寺（あの東京大仏があるお寺です）の下に小さくて静かな公園があります。

城址公園の南側、美術館の近くに位置しますが、石垣の隙間から絶えず湧水が流れ出し、排水溝に流れ落ちています。

赤塚の森ボランティアでは、今年３月よりこの乗蓮寺下の公園に池作りを進めてきました。

まず最初に、石垣下の排水路の掃除を行い、排水路横に小さなくぼみを作りました。排水路をふさいで、このくぼみに水が落ちるようにしました。あふれた水はまた排水路に戻ります。ビオトープの子供の誕生です。（98/3/21）

○ウツギの移植（98/4/5）

次の作業は、排水路横に作ったくぼみに続く池を掘るスペースを確保するため、石垣に沿って植えられていたウツギを約15株程移植しました。

まず、ウツギの上部の枝を切り落としてから、池予定地の周辺と石垣横の土手下などに移植しました。切り落とした枝は、現在、高島第六小学校のビオトープに設置されている柵に使われています。

○池掘り（98/4/18）

ウツギを移植してできたスペースにいよいよ

「創造の森設立の主旨と協力のお願い」を前号に同封させていただいた件について

その後、会員の方から「会との関係が明記されておらず、ＤＭまがいの単なる資金集めともとられかねず、このような広報の仕方については今後、慎重を期することを希望します」とのメモが環境保全課に届きました。

そして、定例会において会報についてのルールを考えようと話し合いました。まずは私（かがみ）から弁明をさせていただいて、ルールづくりについて意見を募集することとしました。

「定例会などで議論やお願いもせずに同封してもらったことは、甘えがあったと反省しています。ただ、会を利用しようという気持ちで送ったものではなく、同じ自然回復をめざす仲間へのメッセージ、あいさつという気持ちで送らせてもらったものです。

ご容赦のほど、お願いいたします。」　（かがみ　りょう）

・「同封してよいもの、ニュースとして取り扱うものの考え方」について、皆さんのご意見をお寄せください。

池掘りです。池の形は角の丸い直角三角形になりました。深さは平均で約30ｃｍほどで、２ケ所の深みを作りました。約40～50ｃｍ掘り進んだところで地下水が湧き出してきました。掘り進むのはここでやめて、池の周辺に掘り出した表土を戻して踏み固めました。

２ケ所の深みの部分には、もしもの転落時につかまれるように、杭を打ちました。また、掘り出した土は、池の横にマウンド状に積み上げてあります。

池の形ができあがったら、さあ、通水です。排水路横に前に作っていたくぼみと今回掘った池をつなぎました。くぼみにたまっていた水は、もっと深い池のほうへ滝のように流れ落ちていきました。あとは水が貯まるのを待つだけです。

○池の様子と変化

池の完成後、5月30日に現地を訪れたとき、池は、澄んだ水をたたえてひっそりとしていました。池の周囲には、草が生え始めており、約１ケ月前のできたての池とは全く雰囲気が変わっていました。そして、先日6月20日に行った観察の結果、次に示す生物などが確認されました。そう、あのオニヤンマも。

○これからのこと

水を入れてから数ケ月で、乗蓮寺下の池の環境は大きく変わってきました。水生植物を植えたり、少し手を加えましたが、ただただ、自然の力に驚かされるばかりです。なるべく手を加えず、見守っていきたいと思います。

これからは、ビオトープとしての管理のあり方の検討や、変化していく環境の観察と記録、安全対策が大きな課題といえるでしょう。

乗蓮寺下ビオトープ調査（98/6/20）で確認されたいきもの

生物

オオシオカラトンボ（オス）、イトトンボ（ヤゴ）、ヒル、オニヤンマ、カマキリ、アリの巣、シャクガ（幼虫）、ナツアカネ（orアキアカネ）、ヒシバッタ、ノミバッタ、アオスジアゲハ、ミズムシ、カゲロウ（幼虫、成虫）

植物

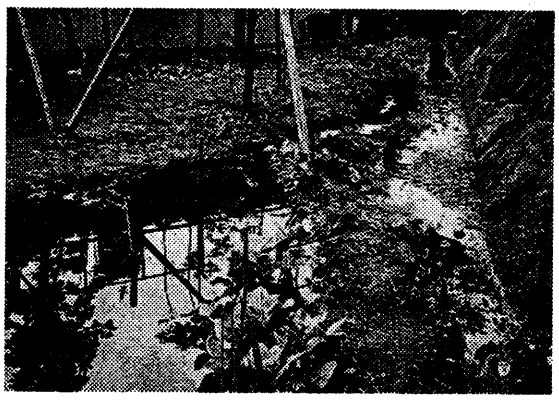
ハキダメギク、イヌガラシ、ヨウシュヤマゴボウ、エノコログサ、メヒシバ、ツユクサ、ウシハコベ、スベリヒユ、コアカザ、カタバミ、オオバコ、ブタクサ、ワルナスビ、ツタ、コヒルガオ、コセンダングサ、トキンソウ、ハルジオン、ハナイバナ、マツヨイグサ、コブナグサ、スズメノテッポウ、コニシキソウ、ナズナ、タネツケバナ、ホトケノザ、ヤブガラシ、スイバ、アレチノギシギシ、トキワハゼ、ノチドメ、ヒヨドリジョウゴ、エノキグサ、ノボロギク、ホ

ソアオゲイトウ、セリ、スギナ、ママコノシリヌグイ、ドクダミ、エノキ（実生）、

植栽植物

カンゾウ（？）、スズラン、キンミズヒキ、ササ、ショウブ、ミツガシワ、ヒメスイレン

（追 加）
クロスジギンヤンマ：98年5月10日１頭飛来、同5月30日１頭ショウブと水草に産卵、腹部を半分水中に入れて5,6分数卵産み付けたようだ。雌単独産卵。区部の希少種。
オニヤンマ：98年6月20日１頭、元気の無い個体、小松さんが数日前にも自宅付近で目撃、区内発生の可能性有り。都のレッドデータB 98年版の区部での危急種。　（釣巻）



実験池づくりに参加して

大山金井町　　渡瀬　淑夫

’９７年９月６日、最初の小さな実験池づくりから始まって、’９８年４月２６日の雨の中での池づくり、そして’９８年５月３１日の３ヶ所目の池づくり。久しぶりの晴天、朝から真夏を思わせるような強烈な陽射し、１０時ちょっと過ぎて現地に着くと５～６名の方がすでに来ておられました。

４月に掘った池を見ながら、今日の場所をどこにするか場所定めをし、前回より６０～７０ｍ上流に決まりました。１０数名が集まって、それぞれ思い思いの池の姿を脳裏に描いて作業を開始、直径３ｍ弱の円を描いて掘り始めました。最初は草が大地にしっかりと根をおろしているため、掘り起こすのが大変でしたが、表土が取れると多少作業が楽に進むようになりました。時間とともに照りつける太陽が強さを増して来ましたが、強い風に救われ爽やかさを感じる空気でした。

掘り進むこと１ｍ，すり鉢状の底の部分から水がしみ出してきました。それ程深く掘らなくても、小さな沼やぬかるんだ湿地にするには、楽な条件の場所かと思われます。

ある程度掘れた小さな池で、二人の子供が泥水の中ではしゃぎはじめました。着ているものが泥んこになっても一向に気にしない様子。生来、子供はこういった遊びに憧れているのかもしれません。大人だって心の奥底には同じ思いがあると思います。ふと子供のころに遊んだ砂地や小石の川底がはっきりと見えた清い流れの荒川を思い出しました。

物的にも水質的にも安全な水遊びのできる場所を子供たちにつくってやれたらなあと思います。

ほぼ目標通りのところまでてきたので安全を考え、すり鉢状の傾斜面に何段かの段差をつけ、そして池の南側に当たる縁に「クヌギ」の苗を５～６本植えました。無事に育ってくれるように祈りをこめて・・・。

最後に危険予防のため、池の周囲にロープを張り、記念写真を撮って今日の作業を終わりま

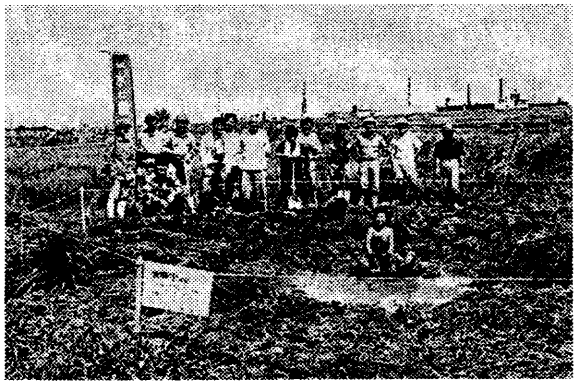
した。

小さな、ささやかな作業でしたが参加された方々は、大きな充足感を味わったことと思います。そしてこの運動の輪が広がって、荒川河川敷に、大小さまざまな沼や湿地ができ、魚やカニやカエルが集まり、トンボやチョウやバッタなどさまざまな昆虫が集まって来てくれたら、ずはらしい楽園ができあがるのに。もしかしたら野鳥の合唱も聞こえるかな。四季折々の草花が咲いて・・・。子供たちのかん高い声が聞こえて・・・。小さな池掘り作業の彼方に大きな夢を描きながら、ペダルを踏んで帰路につきました。

（追記）

そろそろ終わろうとしている頃、野村さんが現れ、池づくりによってカントウヨメナを踏みつけにしていること、池づくりの前に自然観察を行うことの重要性、カントウヨメナは、荒川下流ではここは最も大きな群落であり、他にはもうわずかにしか見られないこと、などを指摘されました。

自然生態園にも大きな群落があったのに、失ってしまったそうです。今後の造成などにおいて、現況の貴重な植物に、より配慮していけるようにと思います。（かがみ）



環境観察をして感じたこと

蓮根1丁目　小屋　弘美

エコポリスセンターに環境観察事業というのがあり、私は観察事業を進める環境観察員をしています。

今年度最初のテーマは「初夏の野草を探そう」でした。その中で私が感じたことを書かせていただきます。

あてにしていってみたらきれいに草刈りしてあったり、アスファルトできれいに舗装していたりと、思うように観察ができませんでした。アスファルトで舗装しないで砂利を敷いている駐車場が思ったよりあり、そこには様々な植物が生息していました（やはりアスファルトで舗装せず砂利のみを敷いている方がよいと思いました）。

思わぬところに空き地があり、植物がたくさん生息しているところがありました。

（余談ですが、調査が終わってから自宅の脇の自転車置き場を見ると、コンクリートの割れ目から5cm位のスズメノカタビラが生えていました。）

５／２４「荒川自然回復団・秋が瀬公園見学会」の報告

板橋４丁目　かがみ　りょう

荒川の河川敷本来の姿が見られるという秋が瀬公園に、水辺の様子や植生、そこの生き物たちを見に行って来ました。

当日は朝小雨が降り、参加者も少なく、天気には恵まれませんでした。

（参加者：栗林、かがみ、小松あつし、他野鳥クラブから河原ゆきえ、小松さんのお友達大元まりか、子供３人を含む計８人）

着くそうそう、オオヨシキリにケヤキの木の上から歓迎を受け、うれしくなりました。

借りていたカマドの付近に荷物を置き、近くの林、湿地を見に行きした。

池では、スジエビ、ヌマエビ、チチブ、魚の稚魚、オタマジャクシ、アメリカザリガニなどが見られました。

樹木はムク、エゴ、ハンノキ、ガマズミ、エノキ、クヌギ、オニグルミ、フジなど。

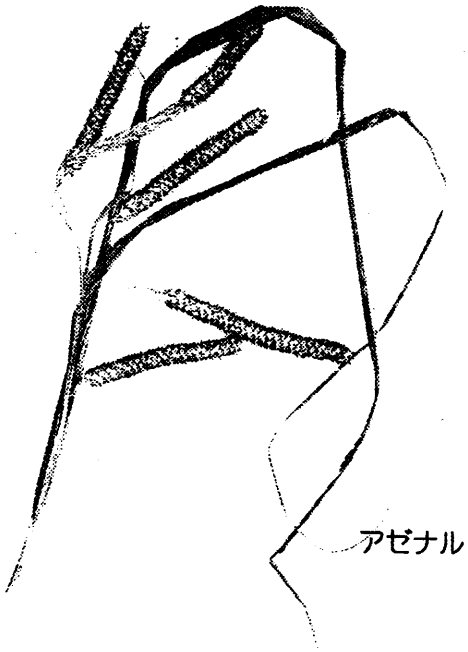
草本は、ヤブスゲ、ミコシガヤ、ウマスゲ、アゼナルコ、ホソムギ、ヤブヘビイチゴ、ママコノシリヌグイ、ハナウドなどイネ科、カヤツリグサ科主体に群生していました。

昆虫では、子供たちがコクワガタをつかまえていたのを始め、ヤブキリ、キリギリス、アカスジキンカメムシ、などが見られ、ナミガタチビタマムシという３㎜ほどのタマムシを撮影している人に会いました。

その後バーベキューを楽しんだ後、雨が降り始めてきたので、早めに引き上げることにしました。ハンノキの種を５月３１日に笹目橋緑地に蒔いておきました。

川の断面や水辺のスケッチなどのための観察シートをつくって配りましたが、書く時間がありませんでした。

多様な植物相とそれに対応した動物相を感じました。ただ、大面積の草地のほとんどは芝生であることが残念な気がします。



アゼナルコ

ウマスゲ

作業日記から

中丸町　矢田　茂

5月22日（金）晴天　高島平第6小学校ビオトープの柵づくり

前より段取りをしておいた作業で、前日に坂本さんと佐藤さんから協力依頼があり、1日で仕上げる予定で作業にかかる。思った通りのでき上がりは満足できた。

今日の作業で特に教頭先生の気配りには感謝したい。不在の時、用務の時々に必ず連絡をされ、冷たいお茶を運んでいただき、心の温まるもてなしに人のふれあいを感じた。

5月23日（土）　晴天　クイズラリー準備の行事に参加する。

一応アイディア・地図づくり・PR等のヒントに赤塚区園周辺を巡り、実地を見聞して、次の参加を約し終わる。

第一回の所感は、地図作りであれば密度を高くして、城址公園周辺と大門地区を別途に設定するのが適当に思える。クイズラリーならば、自然観察を兼ねたクイズ方式を取り入れ、それぞれの設定を試みるのも良い。例えば枯れ木の本数を調べて、与えたマークシートに原因と思われる欄や、対策及び区民の関心のある注意などを記入して貰う。PRも広く区民より頂く方法も考え、地域密着型の効果を狙う。

いずれにしても、多くの参加は得がたいチャンスであり、生かすも殺すも我々の英知である。

立場・主義を越え狭隘な判断に至らず、この行動を盛り上げていきたい。

ごみを拾って、城址にまた愛着も深まりました

川口市　番匠　広

6月7日（日）、環境月間協賛事業としてニリンソウを保存する会の香取さんの提案で、赤塚の森ボランティアは、城址のごみ拾いをしました。

前日は雨、この日も朝からくもり空でしたが、12人が参加しました。さあ始めよう、というところで小雨が降り始めましたが、みんな「やろう」とやる気まんまん！ごみ袋を1枚ずつ持って、カッパを着たり傘をさしながら、それぞれに始めました。通りがかりの人も何人かごみ拾いを始めました。いつの間にか雨も上がり、作業もしやすくなりました。

茂みの中にはたばこの吸い殻やお菓子のつつみ紙、空き缶、割れたビール瓶などあるわ！あるわ！中にはごみが詰まった（家庭ごみ？）ポリ袋や工事の忘れ物のようなごみも・・・

カン、ビン、燃えるごみ、燃えないごみに分けてごみ箱に片づけました。

ごみ拾いは、草が枯れて、ごみを見つけやすい冬にまたやったらいいかなと思いました。

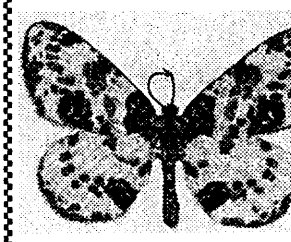
赤塚の森ボランティアのリーダーと活動の担当がきまりました。

赤塚の森ボランティアのリーダー（島井）
自然調査班（島井、釣巻）
乗蓮寺ビオトープ班（真崎、釣巻、江戸）
ウォークラリー（小松、坂本）

いたばしのむし　今は!!

ユウマダラエダシャク

（シャクガ科）



白地に寝ぼけた墨模様は茶色のまるっこいものがある。年二化、5,6月頃と7月半ばから8,9月始め、部分的三化が10月。形は区別出来ないが生態は異なるホソユウマダラが山地にいる。別種か同種か結論は出ていない。Lp

マサキの大害虫？

「来る途中のマサキにひらべったい蛾が沢山いる」と会員の高橋さんに教えてもらう。5月10日の観察会の時である。早速行ってみると、やはりユウマダラエダシャク、私にとっては昔なじみの見栄えのしない顔があった。場所は赤塚5－16の角、駐車場の垣根である。

今年は数も多いし、時期も早いな、さすが今年の春は暖かい、なんてのんきに構えていたら、幼虫の大発生である。6月7日、黒地に黄色い筋模様の尺取虫がマサキの垣根にうようよといる。もう葉っぱの半分はない、虫嫌いの人が見たら卒倒する場面になっている。6月20日、マサキはほぼ完璧に食い尽くされた、成長遅れの幼虫が数匹残っている、まさに大害虫の出現である。

別の場所ではどうだろう。近い所から見てみよう。赤塚8－9に数本のマサキがある、6月7日、一匹もいない。赤塚城趾の石碑を囲むマサキ、ここにもいない。赤塚6－7、下赤塚駅から松月院へ向かう道筋の垣根、いない。

区内数箇所を調べたが、結局今年（1998年）確認できたのは、桜川2－1（幼虫数頭6月13日）、新河岸2－18（幼虫数頭6月28日）と前述の3箇所だけで、固体数も少ない。前年には発生していた志村高校（西台1）付近も今年はいない。大発生は赤塚5－16の一角だけだったのか？どうも大発生なんておおげさだったみたいだ。

ユウマダラエダシャク？　どんな虫

30～40年前の板橋や練馬、荒川区など、要するに都心から少しはずれていたところ、一戸建ての平屋の都営住宅があちこちにあった。マサキの垣根に囲まれ、余り手入れされていない庭が有り、外壁は板張、屋根は黒い昔ながらの瓦か灰色の平たいやつの両方があった。中高年層には懐かしい風景である。この垣根に沢山いたのがユウマダラエダシャクである。これだけで思い出してくれる人もいるだろう。昼間はマサキの葉や板塀にペタンととまり、夕方フワフワと飛び始める。都心や山奥以外なら、東京で一番目につく蛾だったのだ。

ユウマダラエダシャク　その歴史は？

ではこの蛾は大昔から東京にいたのだろうか。先ずはマサキ（幼虫はこれしか食べないのだ）の分布、北海道南部から沖縄、朝鮮半島と中国、海岸付近に生えるとなっている。蛾の分布は山形、福島以南の平野部、日本固有種である。

では近世の東京（江戸）にはマサキは有ったのか。自然分布は多分無い。斑入りの園芸品種は江戸期に出来ているようだが、垣根への利用はいつ頃からなのだろうか。大体東京の民家に生け垣なんていつ出来たのだろうか。

畑の柵として利用は、その前からなのか。区内に残っているマサキで延長が長いものは畑の柵が多いが、武蔵野のかっての純農村地帯にはあったのだろうか。どうも見た記憶が無い。

おそらくこの蛾の自然分布も海岸線に限られていたのだろう。マサキの垣根とともに東京へ分布を拡げたはずだ。そして、マサキとともに滅びる、一足先に、ひっそりと。（この項次号に続く）

（釣巻岳人）

＜荒川自然回復団　活動＆会合レポート［H10年 4月～ 6月］＞

1.活動実績

毎月の行事は，２回程度企画しています． 6月に関しては季節柄イベントはありませんでした．参加者は毎回10～20名前後で適度な活動が実施されました．

4月19日(日) 荒川観察会(野鳥と植物の観察，水と緑の会総会と同時開催)　参加者：約20名　天候：晴れ
4月26日(日) 緑の自然教室(笹目橋緑地の穴堀り，緑の推進委員主催)　参加者：約25名　天候：小雨
5月24日(日) 秋が瀬公園見学会(風景スケッチ，バーベキュー)　参加者：約10名　天候：曇り＆雨
5月31日(日) 第2回 笹目橋緑地穴堀り(3号実験池完成)　参加者：約15名　天候：晴れ

2.世話人会の会合内容

毎月第１木曜日に荒川の世話人会が行われています．大まかな議題を記述します．

4月　行事の企画立案（荒川観察会，緑の自然教室），総会の準備（役割分担，行事予定表の作成）．参加者：４名
5月　行事の企画立案（秋が瀬公園見学会[5/24]，第2回 笹目橋緑地穴堀り[5/31]）
　　参加者：６名
6月　行事の企画立案（人工緑地の見学会[7/19]，キャンプ[8/1]），提案事項の検討
　（市民参加の呼び掛け方法，実験池と水路の整備）．参加者：７名
7月　行事の企画立案（板橋環境会議[10/4]<-要検討）

＊世話人でない方もご意見があれば，この世話人会の会合に参加して議論して頂くか，あるいは，お知り合いの世話人の方に意見して頂ければ幸いです．会の運営について一緒に考えましょう．

3.今後の課題，及び企画など

・広報や地域住民へのＰＲ活動を地道に行い，同時にメディア網の整備を行う．
・健全な自然地回復の為に，その地域固有の植物種を調査し，学者を交えて勉強会を行う．
・定期的に実験池と水路の水質調査を実施する．データが蓄積次第グラフにまとめる．

4.連絡事項

＜荒川クリーンエイド98＞[荒川河川敷のゴミ拾い，水質調査] 10/25(日)実施

・[5/17]各団体間の連絡会議．区公園課に連絡予定(ゴミ処理について)，[9/12,13]セミナー企画(大滝村調)->連絡担当：木村

＜いたばし環境会議＞

・会議進行中（前野町をケーススタディとして環境アクションプランを作成する企画を検討中）->連絡担当：かがみ

（文責：木村延）

活　動　の　お　知　ら　せ

定例会は毎月第一木曜日(８月６日、９月３日)産文ホールＢ１「サンイチ」で（食事可）どなたでも。

荒川自然回復団

●荒川下流の自然回復見学会

中土手の市民の池、葛飾区の東四つ木などを見学します。

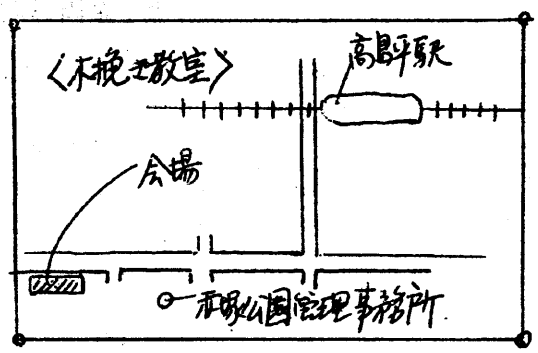
日　時：７月１９日（日）午前９時４５分
集　合：総武線　新小岩駅改札口前
持ち物：弁当、飲み物、野帳、図鑑、あれば双眼鏡
参加費：２００円
問合せ：かがみ　５３７５－６４０４

●笹目橋緑地自然回復話し合いキャンプ

来年度予定の自然回復工事における市民参加の内容について話し合います。ザリガニつりやバッタつりもやろう！

花火も見れる

日　時：８月１日（土）午後２時～夜遅く
集　合：笹目橋下流の実験池付近
西高島平駅から１０分
持ち物：飲み物、おわん、はし、コップ、雨具、虫かご、泊まる人はその準備
参加費：５００円
問合せ：かがみ　５３７５－６４０４



赤塚の森ボランティア

●運営会議(自然回復活動の内容、進め方についての打ち合わせ)

日　時：７月１８日（土）午後１時３０分
場　所：赤塚５丁目集会所（乗蓮寺そば）
連絡先：坂本　3579-2598または3952-6688

●安全柵づくり

乗蓮寺下のビオトープに幼児が入らないよう廃材で安全柵をつくります。

日　時：７月１８日（土）午前１０時～１２時
場　所：乗蓮寺下池集合

●カブトムシに会いにいく会

日　時：７月２５日（土）午前８時３０分
集　合：東武東上線　武蔵嵐山駅改札口
（池袋から約１時間１５分）
持ち物：弁当、水筒、帽子など
連絡先：釣巻（3961）2875

●親子木挽き教室

廃材を使って柵づくりのお手伝い。

残った木っ端でオリジナル木工作品をつくろう？？

日　時：８月２９日(土)午後１時３０分～４時
集　合：赤塚公園管理事務所裏（左下地図）
持ち物：ノコギリ
参加費：３００円（保険等）
連絡先：小松（3937）8490

●ウォークラリー準備のための観察会

赤塚公園の見どころを探します。

日　時：９月５日（土）午前１０時～１２時
集　合：美術館前
連絡先：小松（3937）8490